

短 報

日本新記録のアメリカオオハシシギについて

室伏友三¹・中村一恵²

アメリカオオハシシギ *Limnodromus griseus* (英名 Short-billed Dowitcher) は、ケベック北部、カナダ中部および北西部、アラスカ南部など北アメリカ亜寒帯に繁殖し、三つの地理的亜種に分けられている (Johnsgard 1981)。北アメリカ南部、中央アメリカ、西インド諸島、ペルー、ブラジルまでの南アメリカに渡って越冬し、ノルウェー、スウェーデン、イギリス、スペインなどへの迷行記録がある。

1982年9月30日、神奈川県小田原市千代で観察したオオハシシギ1種は、そのカラー写真を検討した結果、アメリカオオハシシギ *Limnodromus griseus* 幼鳥と判定されるに至ったので報告する。日本新記録と思われる。

アラスカ西部および北部沿岸、シベリア北東部などに繁殖し、日本へも旅鳥または冬鳥として渡来しているオオハシシギ *L. scolopaceus* との識別が最も問題となるので、この種との比較で今回の観察個体の特徴に触れ、アメリカオオハシシギと同定した理由を以下に述べる。

報告するにあたり、最終的な結論に達するまでの過程において適切な助言をして頂いたD. I. M. ウォレス氏 (イギリス) 並びに高野伸二氏に対して深く感謝する。

観察結果およびオオハシシギとの識別について

この個体は第1回冬羽へ換羽中の幼鳥であったが、以下に述べる特徴から別種オオハシシギと区別された。

1. オオハシシギの嘴の長さは頭長の $1\frac{3}{4}$ 倍以上であるが、この個体では頭長の $1\frac{1}{2}$ 倍程度で、前種と比較して明らかに短い (図1)。
2. 頭頂から肩、背にかけての羽色は、オオハシシギ幼鳥のように灰色味が強くなく、暗褐色と淡黄色とが複雑に混じり、全体として明るい淡黄褐色である (図1および2)。とくに三列風切を比較した場合、この個体では暗褐色で幅広く縁取られる羽縁に淡黄色の模様か虫食い状に配列される、いわゆる虎斑模様を形成しており、図3に示すような *griseus* タイプの羽色パターンである。また、外側尾羽の白帯と黒帯の配分も、オオハシシギのように黒帯の部分が幅広くなく、むしろ白帯の方が卓越し、*griseus* タイプ (図3参照) に近いように思われる。

観察個体に認められた以上のような特徴から、本個体がアメリカオオハシシギに該当するのでは

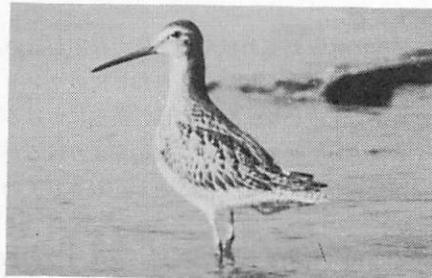


図1 アメリカオオハシシギ 小田原市千代 1982. 9. 30 室伏友三撮影

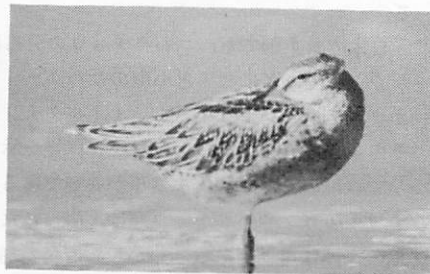


図2 アメリカオオハシシギ 室伏友三撮影

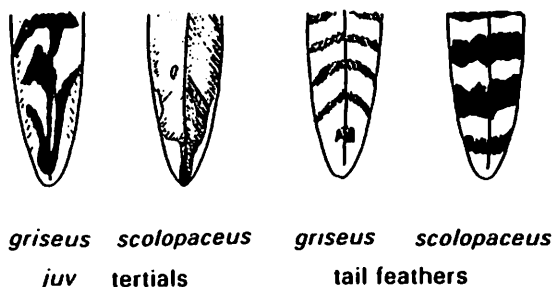


図3 アメリカオオハシギ(左)とオオハシギ(右)の三列風切と外側尾羽の羽色パターン。
Prater et. al. (1977) より

ないかと考え、カラー写真2枚(図1および2)を添えてイギリスのD. I. M. ウォレス氏(D. I. M. Wallace)に意見を求めたところ、1983年6月4日付中村宛の手紙により、本種と同定できる旨の回答を寄せてきた。

発見場所は、海岸から約3 km離れた水田地帯の中にある休耕田であり、同時に観察されたシギチドリ類は、タカブシギ6羽、アカアシシギ1羽、イカルチドリ1羽であった。発見以後の滞在時間は非常に短く、海岸方面から南へ飛び去ったが、飛んだとき、ティウー、ティウー、ティウーと三声鳴くのを聞いた。

おわりに

今回の発見により、日本に渡来するオオハシシギ類 *Limnodromini* は、シベリアオオハシシギ *L. semipalmatus*、アメリカオオハシシギ *L. griseus*、オオハシシギ *L. scolopaceus* の3種となった。これらのうち、アメリカオオハシシギとオオハシシギの間における野外識別が最も難しいと思われる。事実、両種が渡来しているイギリスとアイルランドでは、1972年までに記録された112例のうち、2種を区別できた記録は21%にすぎず、残りの79%は区別できていない(Sharrock and Sharrock 1976)。

今回の場合は、幼鳥であったうえに観察個体が典型的な短嘴の個体であったことが幸いしてアメリカオオハシシギと同定できたが、本種の嘴の長さは頭長の $1\frac{1}{2}$ 倍から $1\frac{3}{4}$ 倍まで変異があり、アメリカオオハシシギ雌のあるものはオオハシシギ雄のあるものより長い嘴をもつ。したがって、幼鳥の場合は、とくに三列風切、肩羽の模様の違い、外側尾羽の黒帯と白帯の配分量の違い(図3参照)に注目する必要があり、嘴の長さの違いは補助的に用いる方が良いのではないかと思う。

アラスカ南部にも繁殖地をもつ亜種(*L. g. caurinus*)ので、アメリカオオハシシギが日本に渡来しても不思議はなく、今後も記録される可能性の高い種である。2種の野外識別については、Nisbet (1961), Jehl (1963), 高野 (1963), Wallace (1968), Cramp and Simmons (1982)の各論文論説が参考となろう。

文 献

- Cramp, S. and Simmons, K. E. L. (eds.) 1982. The Birds of the Western Palearctic, Vol. 3. Oxford Univ. Press.
- Jehl, J. R., Jr. 1963. An investigation of fall-migrating Dowitchers in New Jersey. *Wilson Bull.* 75: 250-261.

- Johnsgard, P. A. 1981. The Plover, Sandpipers, and Snipes of the World. Univ. Nebraska Press.
- Nisbet, I. C. T. 1961. Dowitchers in Great Britain and Ireland. *Brit. Birds* 54: 343—357.
- Prater, A. J., J. H. Marchant and J. Vourinen 1977. Guide to the Identification and Ageing of Holarctic Waders. BTO Guide 17.
- Sharrock, J. T. R. and E. M. Sharrock 1976. Rare Birds in Britain and Ireland. T. & A. D. Poyser.
- 高野伸二 1963 我国産オオハシギについて. *鳥* 18: 1—8, 4 pls.
- Wallace, D. I. M. 1968. Dowitcher Identification: A Brief Review. *Brit. Birds* 61: 366—372.

1983年9月22日受理

1. 小田原市立千代中学校. 〒250-02 小田原市千代.
2. 神奈川県立博物館. 〒231 横浜市中区南仲通.

First Record of Short-billed Dowitcher *Limnodromus griseus* from Japan

Yuzo Murofushi¹ and Kazue Nakamura²

On 30th September 1982, a Short-billed Dowitcher, beginning its molt from juvenile to first-winter plumage, was observed and photographed in Odawara City, Kanagawa Prefecture. It is the first record for Japan.

1. Chiyo Junior High School, Chiyo, Odawara-shi 250—02
2. Kanagawa Prefectural Museum, Naka-ku, Yokohama-shi 231

小笠原航路におけるアカアシカツオドリの観察

樋口行雄¹・花輪伸一²・塚本洋三²

アカアシカツオドリ *Sula sula* は熱帯海域に広く分布しているが、我国近海においては、1975年八重山諸島の仲之神島で1巢の繁殖が確認された(真野徹 私信)ほか、小笠原諸島の西之島、北硫黄島、南鳥島(日本鳥学会 1974)や、最近台風による迷行とみられるものが神奈川県、福岡県、東京湾で記録されているにすぎない(森友 1985, 中村・矢田 1976, 丸・田久保 1979)。

1979年9月3日16時30分、小笠原諸島から東京へむかう小笠原航路において、聳島列島の北北